

なっちゃんのワクワクセロリ通信 ～小池奈津@役場総務課の街角interview～



園芸特産業関係功労賞 平出吉長さん(72歳)

セルリー栽培を始めてもうすく50年。昨年11月に長年のセルリー栽培の功績が認められ、平成19年度長野県園芸特産業関係功労者表彰で表彰されました。また、野菜品評会等で2度の知事賞を受賞しており、今回で3度目の知事賞受賞となりました。

Q. 今回受賞した感想は？

53年間ただ土をいじってきただけのことだから…。でも、チャンスは少ないからありがたくいただきました。品評会で受賞したことや品質が安定していたことが評価されたんだと思います。感謝の気持ちを込めて、2月には受賞記念披露宴をやりました。

Q. 苦労したことは？

水の確保に苦労した。水が無くちや育たないから、セルリーを始めた当時は家庭で、池の水を使って栽培していた。基盤整備や深井戸を掘って水を出すまで、みんな水で苦労していた。そのおかげでセルリーの産地になったと思う。

伊藤幸市副村長就任



副村長の職は1年近く空席になっていましたが、伊藤幸市さんが7月22日付で就任され、この日、村長から選任発令書を交付されました。

伊藤さんは41年間役場職員として勤め、その後中新田区長も務めた経験があります。任期は平成24年7月21日までの4年間です。

茅野警察署原村警察官駐在所開所式 平穏で安全な地域社会の実現を目指す



→木造二階建て。

約6ヶ月間の工事を経て、原村駐在所新庁舎が完成し、3月26日には開所式が行われました。

犯罪の発生は平穏に推移していますが、交通事故は多発しているのが原村の実態です。そのため少しでも交通事故が無くなるように常時警戒力を強化するなど安心して暮らせる環境づくりに努めるとしています。

これまで以上に村の方々に親しみをもっていただき、新しく設置されたコミュニティコーナーを活用しながら交流を深めていきたい」と折茂二郎巡査長は語っていました。

海上自衛隊のイージス艦が漁船と衝突、漁船は真二つに割れ、乗っていた父子は行方不明となり、死亡は確実視されています。仲間の漁船が必死に捜索する様子は仲間を思いやって哀れでした。一体、どうしてこんな事が起こったのでしょうか。艦橋での見張りも、当直仕官への引き継ぎも、最新鋭のレーダーも、役を為さなかったのです。ですから回避行動も後手にまわり、機能しなかったのです。しかしそれよりも何よりも漁船が多くなる海域にもかかわらず、自動操舵のまま突っ込む神経に驚きます。そこには海上衝突予防法の規定はあつてないに等しく、小さい方が避けるとばかりに突き進んだのではないのでしょうか。完全に綱紀がたんでいました。大きいものがその力でまかり通るということになれば、世の中の秩序も平和も発展もなくなってしまう。心しなければならぬことだと思えます。

ところがとかく大きいものの方が価値があるとか、尊いとする考え方が世の常です。特に多数決を重んじる政治の世界においては、多数とか大きいとかいうことが正義とまで思われてしまします。果して本当にそうでしょうか。多数決は物ごとを決める時、止むを得ずとらなければならぬ方法です。しかし大とか多数とかが小や少数を思いやる惻隱の情がなくなれば、世の中は殺伐として温かみも発展も期待できません。それは何も表決ばかりに限ったことではなく、世の中総てにおいて言えるのです。

第29次地方制度調査会においては、道州制への議論をするとしています。道州制と言えれば何か遠い所の話の様な気がしますが、そうではありません。道州制にする為に県はなくし、全国を300の基礎自治体にし、受け入れられない所は窓口事務だけの特例団体にしてしまおうと言われています。相変らずの大きいことは良いことだの発想です。自治には手ごろな大きさがあつたのです。自治体は介してない様です。自治体は大きくなればなる程自治への参加は遠のき、都市部への人口集中が進んで山間部には人が住まなくなりません。また窓口事務だけの特例団体となれば、誇りも自治も取り上げられ、議会も認められず、夢も希望もありません。どちらにしてもダメです。

私たちはこんなことにならない様団結すると共に、発言して行かなければなりません。

原村長 清水 澄

COLUMN

村長インタビュー 山麓朴談

